

第 103 号
平成 29 年
9 月

HPに 創刊号から
連載中

もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意
深く徐々に試して下さい。

山田整骨院
熊本市中央区 4-25-1
096-364-7611

<http://yamadasu.com/>

熊本交通事故, 山田整骨院

検索

<http://www.jiko-kumamoto.net/>

腹の健康(十八)その2...西 勝造 西会会報 昭和 21 年 3 月号(敗戦後第一号)

外痔の局部療法に関して次に述べよう。外痔は冷水と温水とで交互に洗はれるべきである。そして最後は冷水で終わるべきである。兎に角、この局部を完全に清潔に保つ事が重要である。スイマグ (これは年末頃までには出来ます、水酸化「マグネシウム」の製品です) に「オリーブ油を混合したものを塗って置くと治るものである。それを塗るには脱脂綿を用いるとよい。

出血する内痔は、矢張り「スイマグ」と「オリーブ」油とを等量位に混合してねりませたものを用ふるとよい。只、注意すべき事は身體のこの局部に、不適當な激動を興へる事は、さげなければならぬのである。故に若し、人が痔疾に罹っているならば、自転車に乗ったり、馬や自動車に乗ったりすることは出来る限り制限しなければならぬのである。そして一方、局部を冷さないやうに注意しなければならぬ。冷たい處に長く腰をかけたりすると、痔疾を誘導するものである事は人の良く知れる處である。實のところを云ふと、幾等石の上や地面上に長く腰をかけたり坐ったからとて痔になるやうな身體であつてはならない。それが痔疾に罹ると云ふことは根本的に治せと云ふことであり、痔疾に罹ることが實は治療が施されているのである、だから、その自然の治療が行はれている處へ自転車に乗ったり、馬や自動車に乗っては自然療法が妨げられるから却ってひどく重態になるのである。

さて以上茲で述べた方法、即ち、局部的療法と身體の全面的健康療法の二つは、痔疾の初期に於いて用いらるゝならば、疾病を速かに根治せしむるであらう。斯くして困難と不快の一原因が除去されるのである。

又、腸の活動がにぶいと、その共通的结果として、血圧が増して来るのである。そして多くの生命保険会社が契約を結ぶことが出来なくて商売にならないとこぼすのである。何となれば、医者は高血圧を重大視し、治療不能と考へているからである。又、事実今の考へではさうなのである。

血圧も精神の影響によるものであつて、血圧測定器が普通以上の高圧を示すことを知る医者も患者も恐怖に陥つてしまふのである。そして本当に更に亢進して猶ほ血圧を危険の方へと導いて仕舞ふのである。

この異常な血液循環状態は、それ自身独立した疾病ではなく、血液循環が有毒化される結果なのである。この高血圧は、動脈硬化によって猶ほひどくなるのである。腸が沈滞せる結果として、毒素は血液循環に吸収されてしまふ。これ等毒素が過度になると、毛細血管や、小動脈、小静脈の細管部の動きを塞いでしまふ結果となり、そして、これ等の血管を通つて動脈から、静脈へと、血液が移動して行くのである。それ故に、皮膚の働きをにぶらせて仕舞ふと毛細血管が働かないから逆に心臓の作用がにぶくなつて遂には「タンク」としての働きがだめになるのである。

毒物は、これ等血管の外側に、置かれてある。それ故に、血管は固くなつてしまふのである。普通なら血管は弾性ある性質を有している。そして、自由に拡大し収縮するのであるが、それが段々と硬くなつて遂には高血圧になるのである。

この高血圧は、又、動脈硬化の徴候を有するのであって、今や、動脈が蒙っている處の高血圧に対して、その動脈を保護する為めに、自然は動脈壁を固くするのである。

この状態が愈々悪くなるにつれて、血液は身體を循環するのが愈々のろくなる、そして各身體組織が充血するよふになる。その結果、頭痛や鼻血が出ると云ふ徴候を来すのである。

斯くの如き徴候の原因を考慮する時、単に「アスピリン」を用いて頭痛を治さうと試みたり、鼻血を治さうとするのは無益なのである。實際この鼻血は、造化によって仕組まれた安全弁なのである。鼻血を止めるのには頭蓋骨の下方に冷水湿布をして、筋肉を弛めると云ふような、非常に簡単な方法でなされるのである。そして鼻血を出した時間の後に食すべき食事を二、三回粥にすべきである。

高血圧と云ったとて直ちに恐れ驚く必要はない、これとて本人の日常生活、身體の動作、精神の働き、食餌の好みなどによって段々と上昇して来たので、これも造化の妙作用であって、身體上に色々の発作によって幾多の危険信號が発せられる、頭痛がするとか、頭がふらふらするとか、眩暈がするとか、眼が充血するとか、手足の指や趾がしびれるとか、把る力が強ばって朝起きたときは掌が把ることが出来ないとか、後頭部がザルか何かで締め付けられるやうだとか、種々雑多の異変が起こるから、直ちに粥食をやつて、全消化器官の状態、特に腸、の状態に注意を拂ふ事が必要である。灌腸等に依つて自然療法を助ける事も、必要であるかもしれない。然し、如何なる種類の薬剤も禁すべきである。断食療法も良法であるが、手に這入るならば生野菜を搗り潰したものを食しながら自然療法が絶えず適用されると、血圧もだんだん低くなるもので従つて卒中とか中風から逃れることが出来るのである。元來血圧と云ふものは最大血圧と最小血圧とあつて普通に測定されるのは最大血圧のことで、実は最大血圧だけを測つて直ちに危険なりと云ふのは間違ひである。例えば今、血圧が百二十だから安全で百八十だから危険と云ふ譯にはゆかないのである。例へ百八十里あつても最小血圧が百十四ミリ以下であれば絶対安全なのである。百二十ミリだから安全だと云つて脳溢血を起こした例がある、それは最小血圧が恐らくは九十とか九十五、或いは百ミリあつたに違ひない、要は最大血圧と最小血圧の比が一對十一分の七と云ふ比例をしてさへをれば、その人の年齢に適當する通例の血圧数の倍数あつても決して脳溢血を起こすと云ふことはないのである。

各個人の正しい血圧は、九十と云ふ数に其の年齢を加へた数に等しいと専門家によって述べられて居るが、この考へは決して正しいと云ふ譯ではない。たゞそれは最大血圧だけのことで最小血圧を無視したもので却つて危険なものである。(未完)

あ と が き

前号に続き敗戦後第1号を載せました。

…西勝造先生の巻頭言…

四年に亘る戦争で、日本は完全に破壊し盡された。形而上も、形而下も。之が再建は容易なことではない。心身共に健強なる西信奉者に依りてのみ可能なのだ。諸君の奮起を促したい。会員中にも多数の戦死傷者や、戦災者があると思ふ。誠にお気の毒にたへない。謹しんで御見舞い申し上げます。西会も生れて茲に二十年、大変な病弱で昨年遂に頻死の重態となった。然し西健康医学の真髓を発揮して一命をとり止めるのみか、一大発展の礎石を捉えた。一陽来復新日本の再建と共に大飛躍を期待せられる。戦争には負け、国内の不安は極度に募る。思想に、経済に、衣食住に。之を救ふ、正に西式だ。その各般の布石は着々進行中だ。刮目して待たれたい。

敗戦から7ヶ月目の復興号です。現在からは想像もつかない大変な状況だったと思います。この雑誌の紙質は最悪で読みにくいのですが、当時の会員は貪り読んだことでしょう。一陽来復が叶えられ日本国も大飛躍しました。有難い事です。